



湘南における 有機農業の取り組み

株式会社いかす 代表取締役
湘南オーガニック協議会 会長

白土 卓志

白土卓志と申します

- 12歳長女と7歳長男／共働き／1978年5月30日誕生
- 西宮市⇒文京区⇒佐倉⇒江戸川区（実家）⇒文京区⇒港区⇒茅ヶ崎⇒平塚（自宅）
- 好きなコトバ：人間万事塞翁が馬

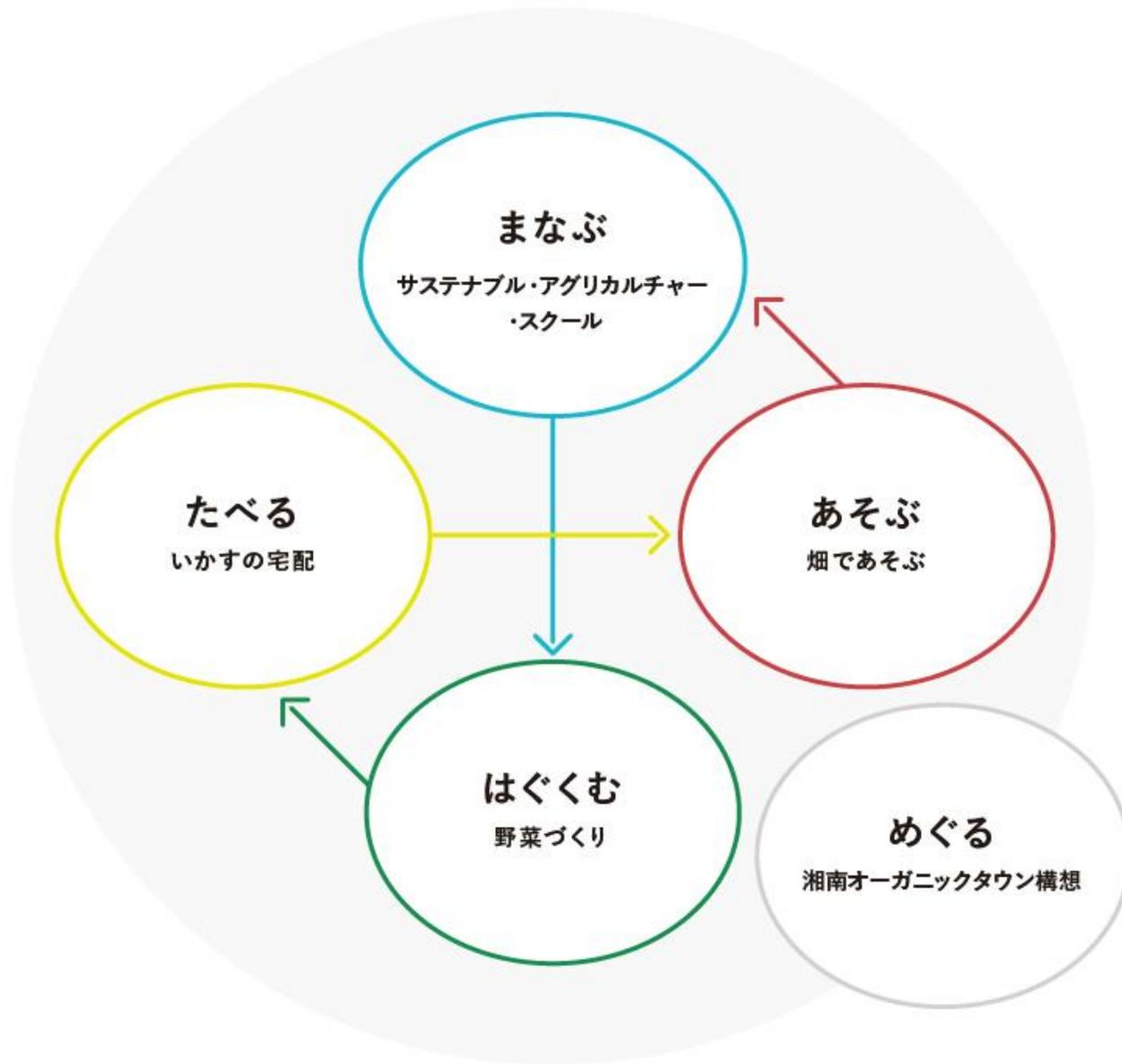
- | | | |
|------------|---------------|---------------|
| • 2010年31歳 | 農業大作戦スタート | ふってきた農業（未来日記） |
| • 2015年36歳 | 株式会社いかす 創業 | 『農と食』で革命が起きる！ |
| • 2018年39歳 | 湘南オーガニック協議会始動 | 湘南がオーガニックな街に！ |
| • 2020年41歳 | 神奈川県有機農業推進委員 | 神奈川県がオーガニックに！ |
| • 2022年43歳 | 日テレさん資本提携 | オーガニック農業一步前へ！ |

いかすの今

いかすの農業

いかすの前提

いかすの未来



いかすの今

いかすの農業

いかすの前提

いかすの未来

いかすの大元のコンセプト

いかしあひ
循環・多様性

いかにが大切にしていること

- 自然が先生
- すべては仮説
- 出したものが還ってくる

いかすの農業とは？

いかすは、

有機 × 露地
× 緑肥 × 野菜
× 地産地消（資材・販売）

を軸に**未来の地球と子どもたちのために**、
事業をはぐくんでいます。

いかすの今

いかすの農業

いかすの前提

いかすの未来

仮説①

そもそも、元気な人や野菜には、
病気や虫はつきません。

病気や虫が来るのは、
栄養が足りないときか、
メタボになったとき。

人や動物と一緒にです。
同じ、生き物です。

これからの農業

- ・ 気候変動
亜熱帯化、50年に1度の～、天気予報の精度
- ・ 農業人口の減少と耕作放棄地の拡大
大規模農業の拡大、AI・IOT農業の拡大
- ・ みどりの食料システム戦略
有機農業25%の世界（現在0.6%）

- ① 認知度100% シェア0.6%
有機農業の方向へシフト
- ② 有機農業は万能ではない
- ③ 気候変動が前提な農業
- ④ 炭素の循環がキーになる
- ⑤ これからの農業は、
チーム力か個性が重要

いかすの今

いかすの農業

いかすの前提

いかすの未来

・露地有機農業の見える化

緑肥を活用した有機農業の見える化

・農業経営人材の育成

有機農業の週末スクール（**SAS**）と農業研修
サステナブルポリシーを体現する人材育成・研修

・自社農園の拡大とパートナーシップ

おいしくてキレイな野菜のブランディング

・地域の有機農業力アップ

SASオンラインと合わせながら、地域人材の育成

・野菜の加工品の開発

料理負担を減らしながら栄養価の高い食材の開発

・地域コミュニティ・サードプレイスの形成

”たべる“と”つくる“の融合

観光農園、体験農園、農福連携など



いかす めぐる つながる。

be organic.

